

## 肝細胞がんについて知りたい

回答：消化器内科 主任医長 寺谷 卓馬

**患者：**肝細胞がんってどんな病気ですか？

**医師：**元気な人の病気です。

**患者：**えっ、どうして？

**医師：**それはご本人が気づかないうちに、あまり症状がないまま病気が進行するからです。肝細胞がんを診断するには、自覚症状と関係なく、血液検査や腹部エコー、CTといった画像検査が必須です。

**患者：**原因は何ですか、お酒？

**医師：**それも原因の一つになります。日本酒換算で一日3合以上、毎日欠かさず飲まれる人は要注意です。ただし一番多い原因は、B型、C型といったウイルス肝炎で、肝細胞がんの9割の患者さんが当てはまります。B型は母子感染によることが

多く、母親や兄弟にもしB型肝炎の方がいれば、必ず調べる必要があります。C型は過去に輸血したことがあれば、調べることをお勧めします。40年以上前の輸血によって、C型肝炎、肝硬変となり、現在、肝細胞がんが発症している方が多いのです。また、明らかに輸血歴がないC型肝炎の方も半数ぐらいおられます。肝障害があれば、必ずC型肝炎でないか調べる必要があります。

**患者：**どんな治療法がありますか？

**医師：**肝機能とがん結節の数、大きさによって治療法が異なります。肝切除や肝移植、肝動脈塞栓術、ラジオ波焼灼療法、化学療法といった治療法があります。どの治療があなたにとって最適か、専門家から十分説明を受けてください。



Q&A 先生教えて！

## 気になるメディカル



### ペインクリニックとは？

回答：ペインクリニック科 医師 安部 洋一郎

**患者：**ペインクリニックとは何ですか？

**医師：**ペインクリニックとは、痛みの治療を専門にしている科です。当院のペインクリニック科は全国に先駆け、昭和39年より始まり、昭和51年には独立科となりました。

**患者：**どんな痛みにも適応がありますか？

**医師：**痛みは本来、原因がなくなると消失します。しかし、痛みの神経自体の「キズ」により、痛みが持続するものがあります。それらは、通常の鎮痛薬では痛みが取れません。帯状疱疹後の神経痛などです。また、椎間板ヘルニアのように、ある程度時間が経つと自然軽快する病気もあります。痛みが持続する結果、体を動かさなくなったり、気分がふさぎ込んだりし、日常生活が快適に送れないという悪循環状態に陥ることがあります。それを神経ブロックという方法で断ち切り、痛みを軽減、日常生活の向上を図ります。

**患者：**神経ブロックとは何ですか？

**医師：**神経ブロックとは、局所麻酔薬で痛みの神経を遮断する方法です。必要な局所麻酔薬は全身投与に比べ少なく済み、蓄積作用もありません。局所麻酔薬が効いている間だけ有効と思われるがちですが、悪循環が断ち切れると麻酔が切れても痛みの減少が持続します。その間に体をできる範囲で動かしてもらいます。筋力、バランス力が回復し、さらに痛みが減少します。いうなれば、神経ブロックは痛みの減少のきっかけを作るといえます。

**患者：**ほかに治療法がありますか？

**医師：**背骨の骨折に対し、骨セメントを入れる椎体形成術、椎間板ヘルニアを細い管で吸い出す椎間板摘出術、難治の痛みには脊髄刺激療法、筋肉の痙攣にボツリヌス療法、手の汗に胸部交感神経切除術などがあります。